

2007年6月4日発行

ぱんす

四季の会・ユーザーズ・サービス

225号

発行人 浅沼 邦夫

拝啓 深緑の候、先生におかれましては益々御健勝のことと存じます。

コーチといえばスポーツ選手を思い浮かべる方も多いでしょう。どんなに才能に恵まれた選手でも、優れたコーチ指導なしで試合に勝つことはできません。「経営者コーチ」も同様の役割を果たす存在です。社長は、毎日の経営の中で常に不安であり、孤独です。私たちは「財務の専門家」です。頼りになる参謀役として、「経営コーチ」の存在感があるのです。

では、経営コーチとしての会計人は具体的にどのような仕事をするのか。大きく分けるとふたつあります。ひとつ目は、会社の経営状況を数値から読み取ることです。決算書や財務諸表などのデータをチェックし、経営者に知らせます。税金の申告なども行いますから、会計人本来の仕事と言えます。ふたつ目は、そこから一步踏み込んで、それらの数値を分析。問題があれば、それがどこから生じているのかを探り、経営者に改善のための経営計画やアドバイスをするのです。

「ますます難しくなる社長の決断」「孤独な社長にとって経営コーチは心強い味方」今回の「全国統一研修大会」での「身近な経営コーチ」を知ってほしいのです。

「名コーチが語る柔道一筋の古賀稔彦氏」「経営コーチを語る異色の三遊亭金時師匠」「中井誠氏のこれからの会計事務所の実態を!」「基調講演を藤原直哉先生から『時代は経営コーチ』を求めている」必ずや先生にとって価値ある大会だと思っています。是非、所長先生、また所長先生代理の方々、「全国統一研修大会」に御参加下さることをお願い申し上げます。

時代は日に日に変化しています

改正税理士法が施行されて5年が経過し、ようやく定着してきた。昭和55年以来の21年ぶりの大改正であった。折しも規制緩和の波が大きいうねり、押し寄せてきた時期でもあり、税理士法改正にも大きな影響を与えている。

ところで、この大改正後も税理士制度を取り巻く環境は急速に変化しており、また制度としての矛盾が感じられる点も散見される。例えば今更言うまでもないが、弁護士、公認会計士（弁護士、公認会計士となる資格を有する者を含む）は税理士法第三条第一項によって税理士となる資格を有する。さらに税理士法改正後の司法試験制度や公認会計士法の改正によって、これらの資格試験制度が大きく変革した。平成18年度の合格者は、税理士試験1126人に対し、司法試験1558人、公認会計士3108人である。今後も毎年同様以上の合格者数が見込まれ、税理士試験以外の税理士有資格者が急増する結果となった。次は法改正以来、何かと議論の多い補助税理士問題等、検討すべき課題は非常に多いようである。

ロハスで経営スタイルで大変革をした!

安ければいいと、いえる時代ではないようです。藤原直哉氏が、「日本はロハスでよみがえる」と語っている。ロハスでよみがえる「日本再生プログラム」藤原直哉著。是非、読んでいただきたいと思います。会計人としても、我々の生き方に示唆を与えているものと思います。書店にない時は「ブロス」にお問い合わせ下されば幸いです。この中では藤原先生の著本を参考にさせていただきます。

ロハスとは「総合的」なライフスタイルの変化、ロハスに関する各分野の変化を個々に見れば、たんに新たな流行と受け取られるかもしれませんが、また、健康を大切にするとか、持続可能性という言葉も昔から使われている言葉かもしれませんが。さらにロハスのなかで取り上げられる商品やサービスも、その多くは昔からあるものかもしれません。

では、ロハスによって何が変わり始めているのか。それは、多くの人が次第にライフスタイル全体をロハスの考え方に沿ったものに「総合的」に変えつつあるということです。すなわち、個々の分野が流行に従ってつまみ食いされるのではなく、ある種の価値観、考え方を持った人が、「総合的」にライフスタイルのあらゆる側面で行動を変えていくという姿なのです。

経営スタイルを大変革した実例として、北海道の旭川市営の旭山動物園に見ることがあります（信用情報4/19号）。衰退傾向の動物園で、発想転換で大成功をした。年間入園者が26万人にまで落ち込み廃園の危機に追い込まれた北海道旭川市営の旭山動物園では、園長が変わり、なぜ入園者が減ったのか園内で聞き取り調査を行った。

すると、「動物園は面白くない」という答えだった。なぜ面白くないのか更に踏み込んで聞いてみると「動物園というのに、寝そべて動かないから面白くない」とのことであった。では、なぜ動かないのかと考えてみると、エサがすぐそばにあったり、定期的に与えられていると、動く必要がないから寝そべてばかりいるということに気がついた。

そこで、先ずオランウータンのエサを高いところに置き、柱を登り、ロープを伝わって行かないと食べられないようにしたら、

オランウータンは観客の前でエサ取り行動をするようになり、観客を喜ばすようになった。

それ以来、一つ一つの動物についての習性を良く調べ、彼らが生き生きと行動できるように、育成の仕方を変えていき、動物園は見違えるように活気づいてきた。

ペンギンはよたよた歩く姿が可愛いので、園内を定期的に散歩させるようにしたら大人気ショーになっていった。更にペンギンの水槽を横から見えるようにしたら、ペンギンは水中では、まるで空中を飛ぶ鳥のように自由自在に泳ぐ姿が見られて評判になった。

その水槽では白熊（北極熊）がザブンと飛び込み、観客の前まで泳いでくる。その迫力が凄い。……といった具合で、あらゆる動物が生き生きと動くようになって、パンダもゴリラもいないのに、わが国の最北にある旭山動物園の入園者が、東京上野動物園を抜いて2005年には年間200万人を超える日本一の動物園になってしまった。

今ではテレビにしばしば取り上げられ、雑誌で紹介され、園長は本を出すようになり、旭山動物園に行くツアーまで組まれるようになったのだから大したものである。

動物園では「飼育係」の部署名を「飼育展示係」と変え、動物の一番良い所をお見せしようと発想を変えた。

「動物はしあわせに暮らせる環境でこそ、本来の姿を見せてくれる」「どの動物も、絶滅しないでほしいという心」が「自然保護」「地域保護」になる。

動物がしあわせに暮らすためにはどうするかという考え方から生まれた「環境エンリッチメント」を取り入れ、実践し、活用するようになって、旭山動物園はぐんぐん変わっていったのである。

生物進化では安定している時は新しい物は何も出てこない。廃園のピンチが職員の考え方と行動を変える絶好のチャンスだったのである。

ロハスも会計事務所の意識改革になるのです。「健康で、持続可能性を考える会計事務所スタイル」を持つことです。それは「お客様に喜ばれて、経営に役立つことを継続する。所員に健康的で、持続性・定着性を可能にする、経営スタイル」を持つことができるのです。浅沼経営センターでは、正に、第2創業期の中で、ロハスの考え方を活かしているのです。

これからは、地域を大事にする、コラボレーションです。「安ければどこでもいい」「会計事務所はどこでも同じだ」と思っている経営者もいます。経営者は、何でも自由に選ぶことよりも、賢い選択をすることが、これから大事になります。その選択をさせるのが、私たちの役割で、それを果たしていくのです。

お客様から厚く信頼され、幅広い分野で実力を持っていれば、いくつもの商品・サービスの分野で、お客様と御用達の関係で結ばれるようになり、会計事務所は、より幅広い仕事を行なうことができるのです。「おまかせ」「安心感」です。特定の人のためだけの「特命」です。地域全体で無数の御用達経営のネットワークが結ばれていて、お客様の満足に対応できる状態を打ち立てることである。